

美唄市の“美しさ”を 新たな視点で見つけ、 世界に届ける広報に



加藤 優菜 (かとう ゆうな)

新潟県燕市出身。関西外国語大学で英語を学び、大学3年次にイギリスのリーズ大学に交換留学。留学先では古代史を専攻し、2025年に大学を卒業。4月から株式会社FoundingBase兼美唄市地域おこし協力隊。趣味は、読書とカフェ巡り。食べることが大好き。

はじめまして。美唄市地域おこし協力隊の加藤優菜です。私は2025年4月1日に美唄市に着任し、「美唄シティプロモーション推進事業（以下、美唄シティプロモーション）」に携わっています。新潟県燕市で生まれ育ち、大阪の大学で英語を専攻していました。大学時代にはイギリスへの留学も経験する中で、日本の素晴らしさに改めて気づき、日本の魅力を世界に発信したいと思うようになりました。

【美唄市を選んだ背景】

私が美唄市の地域おこし協力隊になったきっかけは、美唄シティプロモーションを委託されている株式会社FoundingBaseとの出会いです。FoundingBaseは、「地域共創」を掲げ、地域に根ざした事業を通じ、まちづくりに取り組む企業です。日本の魅力を見つめ直していく中で、事業内容に興味を持ち、美唄市と連携して進められている本事業を知りました。

美唄市は札幌と旭川のほぼ中間に位置し、かつて炭鉱で栄え、現在は農業が盛んに行われています。最盛

期は9万人を超える人口がいましたが、2040年に1万人まで減少するという予測がされ、新たな動きが求められていました。

そこで2022年から、まちへの愛着であるシビックプライドの醸成と関係人口の創出を目的とした、美唄シティプロモーションが始動。その第一歩として、10代から30代の若者による委員会が立ち上がり、新たなまちのブランド『Bibai Be Beautiful 美しくあれ、美唄。』を制作しました。美しさとは、逆境の中でも、地域に根ざし、協働しながら挑戦を続ける姿勢を表しています。

逆境の歴史を踏まえ、「美しさ」を軸に新しいまちづくりに挑戦している美唄市は、私にとっても新しい挑戦ができる場所だと魅力を感じました。大学を卒業してすぐに地域に飛び込むのは不安でしたが、FoundingBaseの業務マネジメントを受けながら活動できるという点も決め手の一つでした。

【活動内容とやりがい】

美唄に来てからは、チームで美唄シティプロモーションに取り組んでいます。私は広報という立場ですが、情報発信を行うだけではありません。まちへの愛着は、地域の魅力に気づき、まちづくりの活動に主体的に関わることによって高まっていくと考え、市民の皆さんと共に活動を共創することも並行して行っています。市民主体の活動が活発になるにつれて、市内外への情報発信が強化されるという順序で進めています。

具体的な活動は多岐にわたります。本事業は4年目に入り、まちづくりへの参画をより広げたいと考え、各自治会を回って事業説明を行っています。地域の方との交流を通して、事業や私自身のことを知ってもらい、活動に興味を持ってもらえるよう、関係性の構築に努めています。また、多世代が交流する場を創出するため、複合商業施設内でコミュニティスペースを運営し、ワークショップやボードゲームなど幅広いジャンルのイベントを実施しています。子どもからお年寄りまでが一緒になって楽しめる企画を通じて、世代を超えたつながりが生まれる瞬間に、大きな喜びを感じます。



地域の自治会へ事業の説明と意見交換

さらに、若い世代のまちづくりへの参画を促すため、子どもたちがまちづくり活動を行う「美唄まちづくり部」の伴走をしています。活動の一環で、地元のお祭りを盛り上げるためのイベントをイチから企画したり、美唄市公式YouTubeのアナウンサーを務めたりしています。子どもたちとの向き合い方で戸惑うこともまだ多いですが、子どもたちの自由な発想にはいつも驚かされます。未来の美唄を担う子どもたちが、自分たちの手でまちを面白くしていく姿を見ることも、やがていの一つです。



美唄まちづくり部の活動（小学生から高校生を対象）

そして、これらの活動を文章や映像で記録し、広報誌やSNSを通じて発信しています。市民の方々とともに創り上げた魅力を伝えることで、「楽しそうだから自分も関わってみたい」という市内外の方からの反響はもちろん、「こんな素敵な活動が地元にあったんだ」といった住民の方々からの声もいただくことがあります。

【美唄市に暮らしていて感じること】

活動を始めたばかりのころは、美唄の歴史や文化について知らないことが多く、どのように魅力を伝えれば良いか悩むこともありました。美唄のまちを歩いていると、「この建物は何だろう?」「この場所にはどんな歴史があるのだろうか?」と疑問に思うことが多々ありました。そんな時、市役所の職員さんや地域の方が気さくに話しかけてくださり、「ここはね、昔はこうだったんだよ」「実は美唄にはこんなものがあるんだよ」などと、たくさんのことを教えてくださったおかげで、少しずつ理解を深めることができます。

美唄の好きなのは、自然と人の距離の近さ、人同士の距離の近さです。美唄の景色では、特に夕焼けがお気に入りです。なんてことのない日常が、私にとっては美唄に来てよかったと感じる瞬間です。また、美唄の食も大きな魅力です。新鮮な野菜や果物、そして何よりも「美唄焼き鳥」の美味しさには驚きました。地域の方から野菜をいただいたり、一緒に焼き鳥を食べたり、美唄ライフを満喫しています。

【将来の展望】

美唄市はほかの自治体の例に漏れず、人口減少や高齢化といった逆境に置かれていますが、「美しさ」を掲げ、まちが一丸となってまちづくりに取り組み始めています。こういった等身大の活動をリアルに伝えることが、まちの未来を担う子どもや未来の移住者、美唄を応援してくれる人々の心を動かすことにつながると信じています。

美唄市での活動はまだ始まったばかりですが、このまちの未来を市民の皆さんと一緒に創っていくことに、大きな喜びと責任を感じています。これからも美唄の魅力を発信し続け、多くの人々の心に響き、行動を促すような広報活動に努めてまいります。美しくあれ、美唄！



ワークショップで市民と作った「美唄の100人の夢」